

学校教育目標

- ・やさしい子
- ・よく考える子
- ・がんばる子

めざす学校像

「みんなが元気で明るい
きれいな学校」

〒350-1315 狭山市北入曽980

TEL 04-2958-2718

Fax 04-2958-2719

紫陽花

校長 加藤 仁

梅雨に入りました。雨ばかり続くと思うと気が滅入りますが・・・皆様はいかがでしょう。でも、考えようで、雨が多いこの時期ならではの私なりの楽しみもあります。それは大好きな花、紫陽花が咲く季節だからです。紫陽花にもいろいろありますが、日本の野山に自生しているヤマアジサイが特に好きです。花の数が少なく、派手さはありませんが、心惹かれる花です。

紫陽花は土の性質で花の色が変わると言われています。酸性の土では青が強くなり、アルカリ性が強い土ではピンクになるそうです。

ところで、ヤマアジサイとアジサイの花言葉はずいぶん異なります。ヤマアジサイの花言葉は「乙女の愛」「切実な愛」、一方アジサイの花言葉は「移り気」「無常」等だそうです。野生に近いヤマアジサイと人間が改良したアジサイ。二つの花の花言葉はヤマアジサイとアジサイの違いをよく言い表していると思います。

もう、6、7年前になるとと思いますが、園芸店で1本のヤマアジサイを買いました。それがヤマアジサイを育てるきっかけでした。花が咲いた後、植え替えの時に枝を整理しました。その切った枝を挿し木したところ、ほとんどの枝から根が出ました。それを庭に植えました。庭に植えたヤマアジサイはどんどん大きくなり、花をたくさん咲かせます。庭植えは鉢植えのような、「わび」とか「さび」という日本的な情緒は薄れてしまっていますが、たくましく咲きます。一方鉢植えの親株は、何年たってもあまり大きくなりません。鉢植えは、冬が過ぎ、春になって、芽を出すのを楽しみにしていると、それを出さない枯れ枝が結構あります。同じ我が家の庭にあるヤマアジサイですが、鉢という限られた場所に植えられた株は大きくなれず、庭に直接植えた小さかった枝が、どんどん大きくなるのは何か複雑な感じがします。環境の違いで親を追い越していきます。

鉢植えは、肥料をやったり、枝を剪定したり、結構手をかけます。よく咲けば室内に置いて楽しんだりします。一方、庭に直接植えたヤマアジサイは手をかけなくてもぐんぐん大きくなり、そのため、剪定もあまり気にせず枝を大胆に切ってしまいます。大地には、様々な栄養が豊富にあり、人間が手をかけなくても十分に植物を育てる力があることがわかります。

人間の子どものも、庭植えのヤマアジサイのように、ほっとけば勝手に大きくなってくれればよいのですが、そうはいきません。手をかけ、声をかけ、十分な食事を与えなければ育ちません。愛情を十分に注がなければならないのです。だからこそ可愛いし、子どもは親を心から頼るのだと思います。

梅雨の時期、紫陽花の花を見に行こうかなと思っています。鎌倉の明月院や神代植物公園、千葉県松戸の本土寺等・・・。少し足をのばせばよいところがあります。雨の中、この季節のよさ、日本のよさを味わおうかと思っています。



ヤマアジサイ

5月の行事から：全校遠足



交通安全教室



野菜づくりが始まりました

2年生が鉢でミニトマトを育てています。校舎の前に鉢が並び、苗がしっかり育っています。また、学校農園では、ボランティアの木藪勝利様、山下則雄様達のおかげで、サツマイモやピーマン、ナスなどの苗を植えることができました。1, 2年生や栽培委員会の児童が収穫を楽しみにしています。

子どもたちにとって、土に触って作物を育てることは貴重な体験だと思っています。この経験は子どもたちの豊かな心を育むうえでなくてはならないことだと思っています。

振り返ると私自身も、小学校低学年の頃、ナスやトマトを植えたことを覚えています。今、植物を育てたり土を触ったりすると、なぜか心が落ち着くのですが、どこかで小さい頃の経験につながっているような気がします。ですから、子どもたちにとって、鉢でトマトを育てることや畑での学習が、教室では学べない人間としての根幹になる大事な教育になるように思います。

交通安全

交通安全教室を実施しました。交通指導員さんたちの丁寧な指導にたいへん感謝しています。また、地域のたくさんの方々に見守られ、登下校できる子どもたちは幸せです。子どもたちには、保護者の願い、地域の願い、教職員の願いである、「事故にあわないで、元気に生活してほしい」ということを感じ取ってほしいとの気持ちから、絶対に事故にあわないことを校長として話しました。ぜひ、それぞれの家庭でも、繰り返し、交通安全について話し合ってください。